



天文資料

2019年 3月号

平成30年度 第12号 (3月号)

平成31年2月27日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<春の夜空は穏やかな星の輝きです>

梅の香が漂い、山手ではウグイスの鳴き声も聞こえる季節となりました。春の足音が日に日に大きくなってきているようです。

夜空を見上げると、冬の華やかな星々が西の空に移り、春の星々が穏やかな光を投げかけるようになってきました。

まず、北の方に体を向け、やや右上の空に目を向けてみましょう。すると、割と明るい7つの星が「ひしゃく」をふせたような形で並んでいるのがわかります。これが北斗七星です。(斗は「ひしゃく」



を意味する言葉です) これを腰としっぽに見立て、天頂に向かって星をつないでいくと「おおぐま座」ができあがります。

これに対して「こぐま座」もあります。北極星をしっぽの先に見立て、それから右に連なる少し暗い星々をつないでいくとできあがります。

胴の部分に二等星のコカブと三等星のフェルカドがありますので、全体の姿はつかみやすいでしょう。

「おおぐま座」は母親のカリスト、「こぐま座」は息子のアルカスで、仲良く北の空を回っています。

次に、体を南の方に向け、天頂あたりに目を向けてみましょう。すると、やや東側に白く輝く星があるのがわかります。この星は一等星のレグルスです。ここから天頂にかけて「？」を裏返



しにしたように並んだ星々と、レグルスの右側(東側)にある三角形に並んだ星々をつないでできる星座が「しし座」です。

明かりのない暗い空に行くと、レグルスの右側、天頂付近にぼんやりとした光のかたまりを見ることができます。これは、プレセペ星団という星の集まりで、このあたりが「かに座」になります。プレセペは「飼いやけ」の意味で、英語ではビー・ハイブ(蜂の巣)、中国では積戸気(魂の集まる場所)と呼ばれています。

春の空は黄砂やスギ花粉、PM2.5 などが多く、すっきり晴れる日がありません。しかし、気流が安定して驚くほどよく見える日もありますので、見通しの良い日はぜひ夜空を見上げてください。

<朝の空にも注目を！>

春分の日が近づいてきました。夜明けもずいぶん早くなってきたと実感されている方も多いと思いますが、明け方の空は金星・木星・土星と、明るい惑星が3つも見えていてとてもにぎやかです。日々、場所が変わりますし、3月上旬は新月前の細い月も入りますのでぜひ早起きしてご覧ください。

